

2026年3月期 第1四半期 決算説明会

ウシオ電機株式会社
2025年8月5日

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

*売上高は外部顧客向け。営業利益率は、外部顧客向け売上高に対する比率を記載しております。

*IP = Industrial Process事業、VI= Visual Imaging事業、LS = Life Science事業、
PHS = Photonics Solution事業



ウシオ電機代表取締役社長の朝日です。

本日はお忙しいところ、
弊社「2026年3月期 第1四半期決算説明会」にご参加いただき、
誠にありがとうございます。

本日ウェブサイトにて開示した資料にもとづき、決算内容をご説明します。

2025年度 1Q業績実績

- ・ 増収増益。期初計画通り進捗
 - 事業ポートフォリオ変革の成果で収益性が改善
 - 計画通りDLT等露光装置関連の先行投資を拡大

2025年度 通期業績予想

- ・ 変更なし
- ・ 株主還元：自社株投資(200億円)の実施を決議

新成長戦略の進捗報告

- ・ 各施策を着実に実行し効果が発現
- ・ 基盤事業強化に資するM&A実施を決議

本日、お伝えしたいことは記載の3点です。

第1四半期実績は、増収増益。
将来に向けた先行投資を拡大させた一方で、
棚卸資産評価損の減少や事業ポートフォリオ変革の成果で
収益性の改善が進みました。

2025年度の業績予想は変更ありません。
また、本日、自社株投資200億円の実施を決議しました。

新成長戦略については、各施策の効果が発現しており、
進捗を後ほどご説明します。

まずは第1四半期業績についてご説明します。

(スライド4ページへ)

I. 2025年度 1Q業績概要

II. 2025年度 通期業績予想

III. 新成長戦略の進捗報告及び決算トピックス

IV. 参考資料 — ①通期業績予想（補足）

②その他

売上高
383億円

前年同期比 : 8億円増 (+2.2%)

- IP事業 : 半導体分野で投資低調により露光装置の売上が微減
- VI事業 : 投資回復傾向でDCP販売が増加

営業利益
9億円

前年同期比 : 6億円増 (+182.5%)

- 前期計上の棚卸資産評価損減少及び投資対象見極め効果で増益
- DLT等露光装置関連の先行投資拡大

親会社株主に帰属する
四半期純損失
▲28億円

前年同期比 : 31億円減

- 【特別損失】事業構造改善費用 36億円 (2024年度 : - 億円)

第1四半期業績は、
売上高は8億円の増収、
営業利益は6億円の増益、
四半期純利益は31億円の減益となりました。

売上高は、生成AI以外の半導体分野で投資低調が継続し、
露光装置の売上は微減。
一方、映画館の投資が一定程度回復し、
デジタルシネマプロジェクターの販売が増加し増収。
営業利益は、DLT等露光装置関連の先行投資が拡大も、
棚卸資産評価損の減少や投資対象見極めによる効果で増益。
四半期純利益は、事業構造改善費用を計上したことで減益となりました。

続いて、営業利益の増減内容をステップチャートでご説明します。

(スライド6ページへ)

2025年度 1 Q : 財務ハイライト



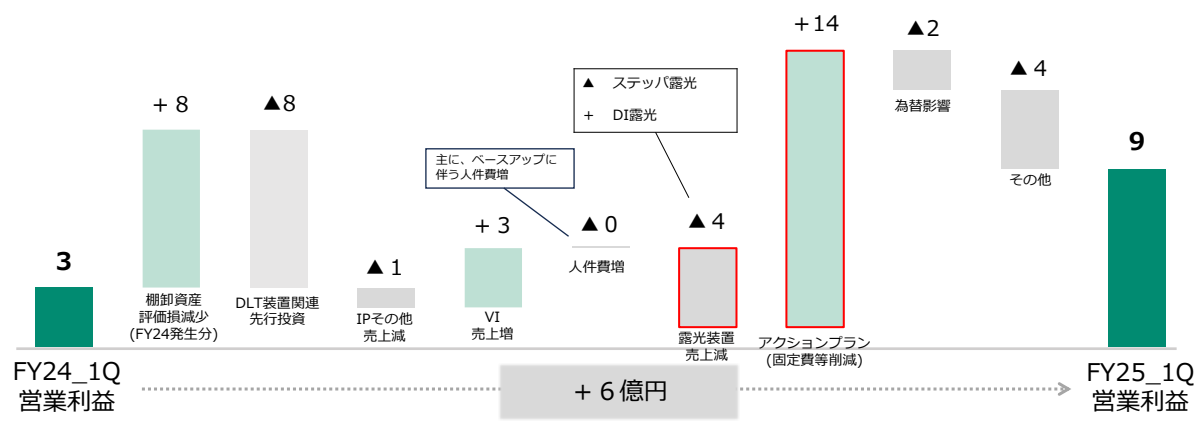
単位：億円		2024年度 1 Q実績	2025年度 1 Q実績	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高		375	383	+8	+2.2%
営業利益		3	9	+6	+182.5%
営業利益率		0.9%	2.5%	+1.6P	-
経常利益		14	16	+1	+10.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益/損失		2	▲28	▲31	-
EPS（円）		2.92	▲32.06	▲34.99	-
為替レート（円）	USD	155	145	▲10	-
	EUR	167	163	▲4	-

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved

2025年度 1 Q : 営業利益 増減分析(前年同期比)

DLT装置関連先行投資増及び露光装置売上減も、固定費等削減アクションプランの実行で増益

単位 : 億円



6 億円増益の主な要因は、
先行投資や露光装置の売上減少により12億円の減益も、
前期に計上した棚卸資産評価損の減少や固定費等削減効果により
22億円の増益となりました。

続いて、セグメント別の業績をご説明します。

(スライド 8 ページへ)

2025年度 1 Q : セグメント別業績



単位：億円		2024年度 1 Q実績	2025年度 1 Q実績	前年同期比	
				増減額	増減率
Industrial Process	売上高	155	158	+ 2	+ 1.6%
	営業利益 (営業利益率)	10 (6.7%)	3 (2.1%)	▲7 (▲4.7P)	▲68.9% -
Visual Imaging	売上高	175	183	+ 7	+ 4.1%
	営業利益 (営業利益率)	▲4 (▲2.7%)	3 (1.9%)	+ 8 (+ 4.6P)	- -
Life Science	売上高	15	15	+ 0	+ 3.1%
	営業利益 (営業利益率)	▲1 (▲11.1%)	1 (7.2%)	+ 2 (+ 18.3P)	- -
Photonics Solution	売上高	25	23	▲2	▲8.8%
	営業利益 (営業利益率)	▲0 (▲2.3%)	2 (9.8%)	+ 2 (+ 12.1P)	- -
その他	売上高	2	3	+ 0	+ 9.0%
	営業利益 (営業利益率)	0 (1.1%)	▲0 (▲7.3%)	▲0 (▲8.5P)	- -
連結合計	売上高	375	383	+ 8	+ 2.2%
	営業利益 (営業利益率)	3 (0.9%)	9 (2.5%)	+ 6 (+ 1.6P)	+ 182.5% -

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved

2025年度 1 Q : Industrial Process事業

USHIO

単位：億円	2024年度 1 Q実績	2025年度 1 Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	155	158	+2	+1.6%
営業利益	10	3	▲7	▲68.9%
営業利益率	6.7%	2.1%	▲4.7P	-
サブセグメント別売上高				
露光用ランプ	37	37	+0	+0.4% ③
OA用ランプ	14	13	▲1	▲8.7%
光学機器用ランプ	27	28	+1	+3.9%
光源事業合計	80	80	▲0	▲0.1%
露光装置	38	38	▲0	▲1.4% ①
光学装置その他	37	40	+3	+8.1% ②
光学装置事業合計	75	78	+2	+3.3%
Industrial Process事業合計	155	158	+2	+1.6%

■売上高：前年同期比 2億円増収

- DI露光は堅調も、投資低調でステッパ露光の販売が減少 ①
- EUVメンテナンス収入が減少も、光配向装置の販売が増加 ②
- 円高影響も、半導体中心に稼働率は回復傾向で微増 ③

■営業利益：前年同期比 7億円減益

- DLT等露光装置関連の先行投資拡大
- EUV開発投資の抑制効果

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 8

インダストリアルプロセス事業です。

売上高は、生成AI以外の半導体で低調な投資が継続しステッパ露光装置の販売が減少。
一方で、フラットパネルディスプレイ向け光配向装置の売上が発生し、微増収となりました。

営業利益は、EUV事業の投資抑制も、先行投資拡大で7億円の減益となりました。

2025年度 1 Q : Visual Imaging事業

単位：億円	2024年度 1 Q実績	2025年度 1 Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	175	183	+ 7	+ 4.1%
営業利益	▲ 4	3	+ 8	-
営業利益率	▲ 2.7%	1.9%	+ 4.6P	-
サブセグメント別売上高				
プロジェクター用ランプ	28	22	▲ 5	▲ 20.4% ②
照明用ランプ	9	7	▲ 1	▲ 18.1%
光源事業合計	37	30	▲ 7	▲ 19.9%
シネマ	59	75	+ 15	+ 26.6% ①
一般映像	78	76	▲ 1	▲ 1.4% ③
映像装置事業合計	137	152	+ 14	+ 10.7%
Visual Imaging事業合計	175	183	+ 7	+ 4.1%

■売上高：前年同期比 7 億円増収

- 映画館の投資が一定程度回復しDCP販売が増加 ①
- 固体光源化及び円高の影響で販売が減少 ②
- 需要は堅調も円高の影響で横ばい ③

■営業利益：前年同期比 8 億円増益

- 前期計上の棚卸資産評価損が減少
- 製品ポートフォリオ見直し効果

ビジュアルイメージング事業です。

売上高は、固体光源化の影響でプロジェクター用ランプの販売が減少も、映画館の投資が一定程度回復したことにより、デジタルシネマプロジェクターの販売が増加し、7 億円の増収。

営業利益は、前期計上の棚卸資産評価損の減少や製品ポートフォリオ見直しによる効果で 8 億円の増益となりました。

2025年度 1 Q : Life Science事業 /Photonics Solution事業



Life Science事業

単位：億円	2024年度 1 Q実績	2025年度 1 Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	15	15	+0	+3.1%
営業利益	▲1	1	+2	-
営業利益率	▲11.1%	7.2%	+18.3P	-

■売上高：前年同期比 0 億円増収

- 全般的に販売が堅調

■営業利益：前年同期比 2 億円増益

- 新規案件の投資対象見極め効果で増益

Photonics Solution事業

単位：億円	2024年度 1 Q実績	2025年度 1 Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	25	23	▲2	▲8.8%
営業利益	▲0	2	+2	-
営業利益率	▲2.3%	9.8%	+12.1P	-

■売上高：前年同期比 2 億円減収

- 産業用途向けデバイスの販売が減少

■営業利益：前年同期比 2 億円増益

- 案件の選択と集中による収益効率改善で増益

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 10

ライフサイエンス事業です。

売上高は、全般的に販売が堅調に推移し横ばい。
営業利益は、新規事業案件の投資対象見極め効果で、
2 億円の増益となりました。

最後に、フォトリソソリューション事業です。

売上高は、産業用途向けデバイスの販売が減少し 2 億円の減収。
一方、営業利益は、開発案件等の投資対象見極めによる収益効率改善で、
2 億円の増益となりました。

続いて、通期業績予想についてご説明します。

(スライド12ページへ)

I. 2025年度 1Q業績概要

II. 2025年度 通期業績予想

III. 新成長戦略の進捗報告及び決算トピックス

IV. 参考資料 — ①通期業績予想（補足）

②その他

2025年度 通期業績予想：財務ハイライト



期初計画から変更なし

単位：億円	2024年度 実績	2025年度 予想	前年同期比		通期予想に対する 1Q進捗率
			増減額	増減率	
売上高	1,776	1,700	▲76	▲4.3%	22.6%
営業利益	88	100	+11	+13.3%	9.7%
営業利益率	5.0%	5.9%	+0.9P	-	-
経常利益	124	105	▲19	▲15.7%	15.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	67	70	+2	+3.0%	-
EPS（円）	70.27	79.45	+9.18	+13.1%	-
ROE	3.1%	3.5%	+0.4P	-	-
年間配当（円）	70	70	-	-	-
為替レート（円）*	USD	153	▲12	-	-
	EUR	164	▲7	-	-

* 1Q累計期間為替レート実績：USD：145円、EUR：163円、2Q以降の為替レート前提：USD：140円、EUR：155円
（参考）為替感応度：1円変動による影響額(通期)【対USD】売上高：約10.0億円、営業利益：約1.2億円

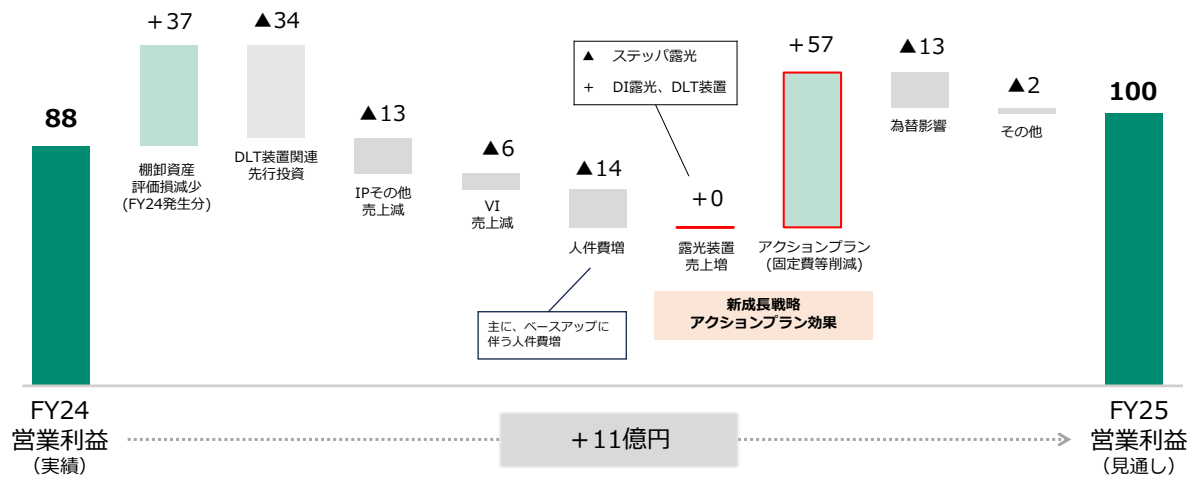
Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 12

通期業績予想は、冒頭でも触れた通り、前回予想から変更ありません。

(スライド14ページへ)

2025年度 通期業績予想：営業利益増減分析（前年同期比）

期初計画から変更なし



2025年度 通期業績予想及び1 Q進捗率(セグメント別)

単位：億円		2024年度 実績	2025年度 予想 前比より改善を計	前年同期比		予想に対する 1 Q進捗率	2 Q以降の見通し
				増減額	増減率		
Industrial Process	売上高	789	760	▲29	▲3.7%	20.8%	- ステッパ露光装置は下期より販売増加 - DLT装置は4 Qより売上計上 - DLT等露光装置関連の先行投資は計画通り実施
	営業利益 (営業利益率)	96 (12.2%)	65 (8.6%)	▲31 (▲3.6P)	▲32.5% -	5.0% -	
Visual Imaging	売上高	808	760	▲48	▲6.1%	24.1%	- 需要は期初計画通りに推移 - 構造改革を推進 - 米国関税措置の影響は想定範囲内（詳細：スライド29）
	営業利益 (営業利益率)	7 (0.9%)	45 (5.9%)	+37 (+5.0P)	+516.7% -	7.8% -	
Life Science	売上高	61	60	▲1	▲1.8%	26.5%	- 売上は横ばいで推移 - 投資見極め効果は継続
	営業利益 (営業利益率)	▲10 (▲17.7%)	▲6 (▲10.0%)	+4 (+7.7P)	- -	- -	
Photonics Solution	売上高	103	105	+1	+1.8%	22.1%	- 売上は横ばいで推移 - 案件見極め効果は継続
	営業利益 (営業利益率)	▲4 (▲4.0%)	▲4 (▲3.8%)	+0 (+0.2P)	- -	- -	
その他	売上高	13	15	+1	+9.2%	20.9%	
	営業利益 (営業利益率)	0 (6.0%)	0 (0.0%)	▲0 (▲6.0P)	- -	- -	
連結合計	売上高	1,776	1,700	▲76	▲4.3%	22.6%	
	営業利益 (営業利益率)	88 (5.0%)	100 (5.9%)	+11 (+0.9P)	+13.3% -	9.7% -	

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 14

セグメント別業績予想も、変更はありません。

インダストリアルプロセス事業では、DLT装置含めた露光装置の販売拡大は、下期以降を予定しています。

ビジュアルイメージング事業では、懸念された米国の関税措置の影響は、現時点で想定の範囲内で推移しています。
詳しくは、後ほどご説明します。

1株当たり
期末配当額

【配当方針】

安定的な配当

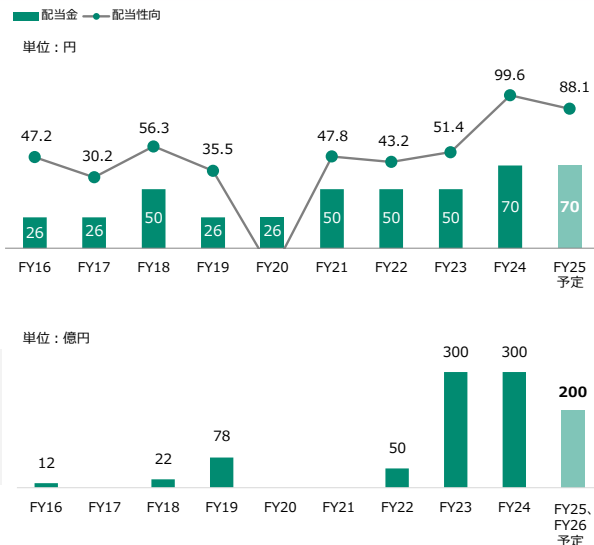
2025年度 70円/年（予定）

新成長戦略の方針：
FY24～FY26: 下限配当70円/年を設定

自社株投資

【自己株式取得の方針】

機動的に実施

2025年8月5日リリース
取得期間：2025年8月6日～2026年4月30日
買付予定金額：200億円(上限)
買付予定株数：1,500万株(上限)
うち、350万株はToSTNeT-3で買付予定新成長戦略の方針：
FY24～FY26で累計500～600億円の
自社株投資を実施予定

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 15

株主還元ですが、本日、自社株投資200億円の実施を決議しました。
また、1500万株のうち、350万株については、
市場外取引であるToSTNeT-3にて買い付けすることを決議。
資本効率改善に向けた新成長戦略の方針に則り、着実に施策を進めています。
詳しくは、本日公表のリリースをご覧ください。

以上で第1四半期業績及び通期業績予想の説明を終わります。

続いて、新成長戦略の進捗と決算トピックスをご説明します。

(スライド17ページへ)

I. 2025年度 1Q業績概要

II. 2025年度 通期業績予想

III. 新成長戦略の進捗報告及び決算トピックス

IV. 参考資料 — ①通期業績予想（補足）

②その他

各施策を着実に実行し効果が発現中

① 成長事業（半導体アドバンスドパッケージ事業、IP事業の成長拡大）

- DLT装置の追加受注獲得&初出荷（スライド18）
- アドバンスドパッケージ向け戦略製品 UX-5 新製品をリリース（スライド19）
- M&A：光源事業の収益基盤を強化（スライド20～23）

② 事業ポートフォリオ変革（事業等の取捨選択、構造改革）

構造改革：収益構造の着実な強化が進展

- VI事業：固定費削減アクションプランで収益構造改革が進捗（スライド24～25）
- PHS事業：案件の選択と集中による収益効率が改善。更なる施策も検討中
- 新規事業の選択と集中 27件中14件の中止決定(2025年6月末現在)
継続案件：PFAS分解、パルス光式新型分光技術、二光束干涉露光 他

③ 財務戦略

自社株投資(200億円)の実施を決議 新成長戦略の方針に則り実施を決定（スライド26）

結果報告：セカンドライフ支援制度拡充

応募人数が確定。特別損失を計上（スライド28）

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 17

新成長戦略の進捗ですが、各施策を着実に実行しています。

DLT装置で追加受注を獲得しました。

また、ステッパ露光装置の次世代機開発が順調に進んでおり、本日、アドバンスドパッケージ向けの新製品を今後リリースする予定であることをお知らせいたしました。

インダストリアルプロセス事業の基盤事業である光源事業の強固な収益基盤を構築するためのM&A実施を決定しました。

引き続き事業の取捨選択と集中及び構造改革を進めています。

事業ポートフォリオ変革は、構造改革フェーズに入り、ビジュアルイメージング事業を中心に収益改善に向けたアクションプランを進捗させています。

財務戦略では、追加の自社株投資を決議しました。

以上を、次ページ以降で詳しくご説明します。

① 成長事業（半導体アドバンスドパッケージ事業）

USHIO

DLT装置の最新状況

- **追加受注を獲得。**DLT装置の客先認証が順調に進捗
- 2025年6月、アドテックエンジニアリング長岡工場から初号機を出荷



長岡工場出荷時の様子

次世代パッケージ基板の事業環境（再整理）

DLT装置の採用判断が一部遅延も、**将来に向けたポテンシャルは高い**

- 半導体アドバンスドパッケージ市場は**確実に成長（2030年に800百万ドル超）**
- 足元は、生成AI半導体需要の拡大に対応するため従来技術が優先され、新技術への投資は見送られている状況
- 性能や歩留り向上のため、パネル化や大判化、シリコンブリッジ採用による基板の歪みやダイシフト対応ニーズは強い
(詳細:「新成長戦略Phase I 進捗報告」(2025年5月13日公表) スライド28-30)
- 課題解決の有力なソリューションとしてDLT装置が期待されている
- 複数顧客*が次世代パッケージ基板向けにDLT装置を評価・商談中 *主に日・韓・台・中・米・欧
- 評価対象は、WLP*、有機基板、RDL*、PLP*、ガラス基板など多岐に亘る
*WLP: Wafer Level Package、RDL: Redistribution Layer、PLP: Panel Level Package
- 生成AI半導体やHPC市場の拡大で、サブストレート基板含む**高性能パッケージ基板の生産規模が拡大**
ステッパ含む関連装置の成長機会獲得に積極活動中

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 18

成長事業である半導体アドバンスドパッケージ事業の最新状況をご説明します。

6月にDLT装置の初出荷を行いました。また、追加受注を獲得しています。

改めて、次世代パッケージ基板の事業環境に関する当社の認識をご説明します。

半導体アドバンスドパッケージの需要が今後も成長拡大する認識に変更はないものの、足元は、生成AI半導体需要の拡大への対応に、従来技術が優先され、新技術への投資が見送られている状況と認識しています。ただし、性能や歩留まり向上ニーズは強く、多くの基板関連メーカーがDLT装置を課題解決の有力なソリューションとして評価しており、商談が進んでいます。

また、サブストレート基板を含む高精細パッケージ基板において、生産規模拡大の動きが出てきており、需要を確実に取り込んでいけるよう進めています。

① 成長事業（半導体アドバンスドパッケージ事業）

USHIO

解像度1.5μmのステッパ露光装置 リリース予定のお知らせ ～アドバンスドパッケージ向けラインアップ拡充～

半導体アドバンスドパッケージ向けステッパとして、1.5μmの解像度で100mm角以上のサイズを1ショット、ステッチレスで露光することで、量産時の歩留まりと、生産性の向上を可能とする露光装置「UX-59113」の開発目途がたち、2026年度中に上市予定

■主な特長

- ・解像度1.5μm、1ショット100mm角以上の大面積露光フィールド
- ・光源等、自社で設計し、装置化
- ・フルパネルサイズ有機・ガラス基板対応搬送プラットフォーム

半導体アドバンスドパッケージにおいて重要な役割を果たすインターポザー基板対応の新製品「UX-59113」が加わることで、より幅広いお客様のニーズを取り込み、生成AI半導体を中心とした次世代パッケージ基板の技術革新に貢献する充実した製品ラインアップが構築

ウシオの露光装置ラインアップ



外観・仕様は予告なく変更する可能性があります

詳細：「[解像度1.5μmのステッパ露光装置 リリース予定のお知らせ～アドバンスドパッケージ向けラインアップ拡充～](#)」（2025年8月5日付ニュースリリース）

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 19

本日、半導体アドバンスドパッケージ向けの戦略製品として、ステッパ露光装置の次世代機の開発が順調に進み、製品化に向けた発表をしました。今回の「UX-5」新製品は、ライン&スペース1.5μm（ミクロン）に対応し、1ショットで100mm角を超える広範囲の露光が可能です。これにより、近年重要性が高まっているインターポザー基板への対応が大幅に強化されます。

現在、当社はアプライドマテリアルズ社との業務提携による新製品「DLT装置」の販売拡大に注力していますが、今回のUX-5は、DLT装置を下支えする商品として、量産工程における生産性や歩留まり向上といった、お客様のニーズに的確に応える設計となっており、今後の市場拡大に大きく貢献できるものと期待しています。本製品の投入により、当社の露光装置ラインアップは一層強化され、半導体アドバンスドパッケージ分野における競争優位性が、さらに高まると考えております。

このように、半導体アドバンスドパッケージの技術進化に対し、DLT装置を中心とする当社の露光装置が貢献してまいります。

① 成長事業（IP事業の成長拡大：M&A実施の決定）

● 基盤事業の強化に資するM&A実施を決定(ams-OSRAM AGの一部事業を買収)

目的：基盤事業の中核である光源事業の競争力を強化し、より強固かつ長期的な収益基盤の構築を実現

- ・ 需要が拡大する半導体製造装置向け特殊ランプの収益拡大
 - グローバルプレゼンス強化による競争優位性の確立
 - コスト競争力の向上

■ 買収対象事業の強み

- ・ 製造ライン自動化とプロセス整流化による高効率生産体制と在庫最小化
- ・ 欧州地域を中心とした顧客基盤

■ シナジー効果

- ・ 生産効率改善、顧客基盤の拡大、組織効率の向上、調達力の向上

■ 新成長戦略への効果

- ・ 10%を超える投下資本利益率が期待できる事業の獲得
- ・ IP事業(半導体)の成長拡大に貢献

インダストリアルプロセス事業の成長拡大に向け、M&A実施を決定しました。

今回の買収対象事業は、光源事業の最大の競合先であるオスラム社の産業及び、エンターテインメント用ランプ事業となります。

買収により、当社の基盤事業の中核である、光源事業の競争力を一層強固なものとすることで、更なる収益性向上と持続的な収益基盤を確保することができます。

当事業は、10%を超える投下資本利益率が期待できるため、インダストリアルプロセス事業の成長拡大に大きく貢献。
また、注力事業である半導体アドバンスドパッケージ事業の成長を支えるより強固な基盤構築を実現できる案件です。

買収事業の詳細内容は、次のページ及び2025年7月29日付のリリースを参照ください。

（スライド22ページへ）

■ ams-OSRAM AGについて



半導体及び車載用・産業用特殊ランプ技術における世界的なリーダーであり、車載用、産業用、医療・消費者向けのLED、レーザー、センサー等の半導体デバイス、及び半導体製造装置向け特殊ランプ等の設計・製造・販売

■ 買収対象事業について

半導体用を中心とした産業及びエンターテインメント用ランプ事業
→ 半導体製造装置向け特殊ランプ等（詳細は、スライド22）

■ 買収に関わる資金調達

自己資金及び金融機関からの借入等により調達した資金を充当予定

■ 買収の概要

- ・取得価額：約152億円（€88.3M）
- ・買収方法：OSRAM GmbHが新たに設立予定の子会社の全株式を取得
当該事業に係わる関連資産を譲り受け
株式及び資産譲渡契約を締結
- ・買収事業の規模：売上高_約288億円(2024年12月期)
- ・受入従業員数：約500名

■ 今後のスケジュール

2025年7月28日：取締役会にて買収を決議
2026年3月期第4四半期のクロージングを目指す

■ 今後の業績影響

2026年3月期業績への影響は現在精査中のため、開示すべき影響等が判明した時点で速やかにお知らせします

詳細：「[ウシオ、ams-OSRAMグループのランプ事業を買収](#)」及び「[ams-OSRAM AG の新設子会社の株式取得（子会社化）に関するお知らせ](#)」（2025年7月29日付）

買収対象事業（詳細）

用途別	当社 セグメント	買収後
・ 半導体向けランプ 露光用（i線）、検査用、 サーマルプロセス	IP事業	市場動向：確実な市場成長 業績貢献：競争力向上により 売上及び利益の拡大
・ シネマ用ランプ ・ 空港照明用ランプ ・ 舞台・スタジオ・劇場・ス タジアム用照明（ランプ）	VI事業	市場動向：シネマ用は減少、特殊ランプは安定 業績貢献：生産効率の向上で、 安定したキャッシュ創出
・ 医療向けランプ	LS事業	市場動向：安定 業績貢献： 安定収益の確保

参考：買収事業の売上高_約288億円(2024年12月期)

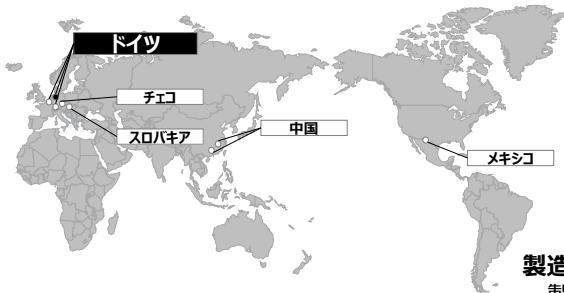
今回の買収対象事業は、当社の各セグメントにまたがります。

主な内訳としては、今後も持続的な成長拡大が見込める
インダストリアルプロセス事業の半導体分野向けが約半分。
それ以外にビジュアルイメージング分野や、ライフサイエンス分野向けも
含まれます。

プロジェクター用光源などで、一部需要減少が見込まれる分野もありますが、
買収後は、生産効率を向上させることで、安定したキャッシュ獲得が見込まれます。

ams-OSRAM AGの生産体制

・譲受対象は、ベルリン工場(ドイツ)のみ



製造プロセスの最適化を目指す
・製品品種の統一
・製造ラインの効率化 他

ウシオの光源事業の生産体制

	主な生産工場	主な製品
日本	ウシオ電機 播磨工場	・露光用ランプ
	ウシオライティング 福岡工場	・半導体ヒーター ランプ ・照明
中国	ウシオ広州・韶関	・プロジェクター 用ランプ ・産業用ハロゲン ランプ
ASEAN	ウシオフィリピン	・プロジェクター 用ランプ
北米	ウシオアメリカ	・産業用ハロゲン ランプ ・半導体ヒーター ランプ
欧州	ウシオポーランド	・ナトリウム ランプ ・半導体ヒーター ランプ

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 23

今回の買収では、オスラム社のベルリン工場を譲受し、約500名の従業員を迎え入れます。

まずは、オスラムブランドとウシオブランドそれぞれの強みを活かしつつ、製造ラインでは双方の利点を共存させる形で運用します。
これにより、並行稼働を通じてスムーズな受け入れと、安定した生産体制の確立を図ります。

その後は、各製品の需要動向を注視しながら、製造プロセスの最適化を進め、効率的な生産体制の構築に取り組みます。

これにより、更なるコスト低減と競争力強化を推進し、シナジー効果の最大化を目指してまいります。

② 事業ポートフォリオ変革の進捗状況

USHIO

● Visual Imaging事業：構造改革の進捗状況

抜本的な収益構造改善は着実に進展

方向性（新成長戦略方針を再掲）

収益性を改善し、安定したキャッシュ創出事業へ転換

改善が進まない場合は、あらゆる選択肢を検討

背景（事業環境等）

- ・需要安定
シネマスクリーン数*は安定推移。ハイエンド映像ニーズは拡大。ランプの置換えが進むも、戦略的に利益を確保
- ・高い競争優位性
高い技術力を有するハイエンド領域特化で更なる競争優位性を確保
- ・構造改革が進展
製品ポートフォリオの見直しにより収益構造が改善

*参考：シネマスクリーン数推移はスライド33参照

将来の営業利益率10%以上に向け着実に進展

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 24

ビジュアルイメージング事業の構造改革の進捗状況について、ご説明します。

改めての説明になりますが、ビジュアルイメージング事業は、収益性を改善させ、安定したキャッシュを創出する事業、つまりキャッシュカウ事業への転換を図ります。

当事業を取り巻く需要はこの先も安定しており、加えて、高い技術力を有するハイエンド領域に特化することで、高い競争優位性を確保できます。

また、構造改革は順調に進展しており、収益性の向上が着実に進む見込みです。

② 事業ポートフォリオ変革の進捗状況

USHIO

● Visual Imaging事業：構造改革の進捗状況（続き）

固定費削減アクションプラン ▲34億円削減の進捗状況

組織運営の見直し*1

- ・人員適正化（約1割減*2）
- ・拠点統廃合（拠点数▲3（17→14））

*1: VI事業に関連するグループ会社で実施
*2: 2025年6月末現在（2024年12月末比）

コスト削減の取り組み*1

開発案件及び販促活動の選択と集中、管理コスト縮小

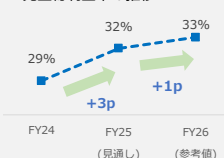


将来的には、営業利益率
10%以上を目指す

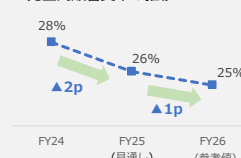
収益構造改善の取り組みで体質が良化

製品ポートフォリオ見直しによるハイエンド領域への集中及び、構造改革により着実に体質良化へ

■ 売上総利益率の推移



■ 売上高販管費率の推移



Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 25

ビジュアルイメージング事業において、
2025～26年度の2年間で34億円の固定費削減を実施します。

この具体的な進展として、組織運営の見直しにより、人員の適正化を進め、
当セグメントに関わるグループ会社の約1割の人員数が減少しました。
また、複数拠点の廃止を決定しました。

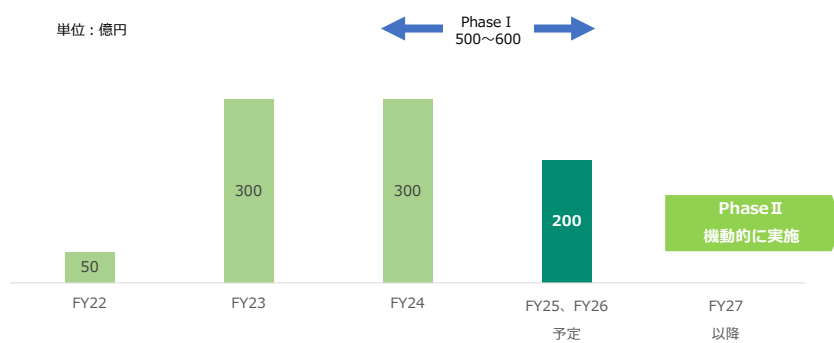
その他、開発案件及び販促活動の選択と集中や、
製品ポートフォリオ見直しによる管理コストの縮小など、
コスト削減を進めています。

その結果、収益構造の改善が進んでいます。
売上総利益率は着実に向上。売上高販管費率は低下の方向です。

③ 財務戦略

新成長戦略の方針に則り、**200億円**(上限)とする自社株投資を取締役会にて決議

- 買付予定金額：**200億円(上限)**
- 買付予定株数：**1,500万株(上限)** うち、350万株はToSTNeT-3で買付予定
- 取得期間：2025年8月6日から2026年4月30日まで



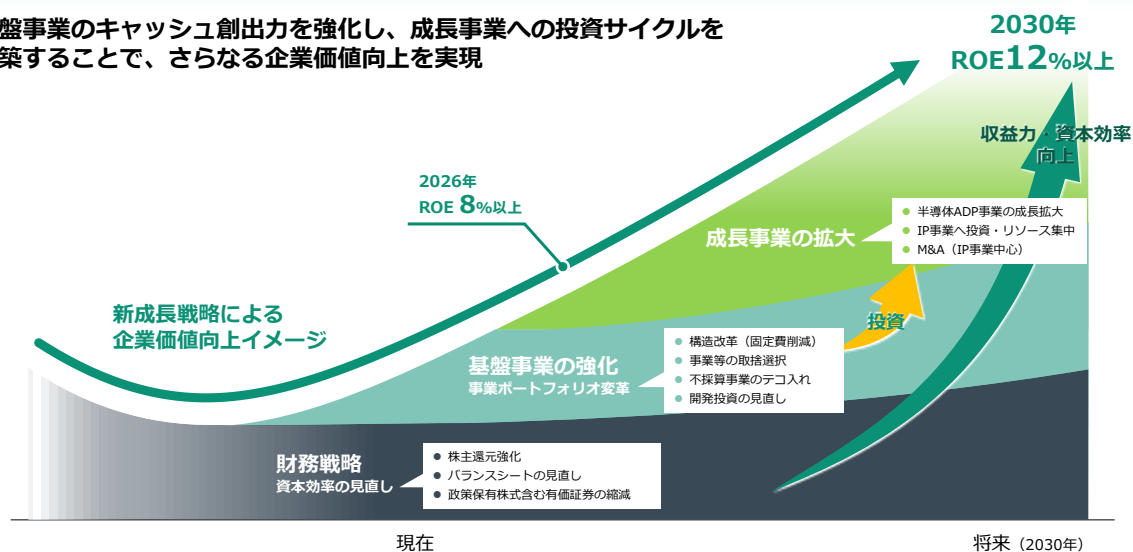
財務戦略ですが、新成長戦略の方針に則り、
自社株投資200億円の実施を取締役会にて決議しました。

引き続き、資本効率の改善に向け、取り組みを強化していきます。

新成長戦略の進捗報告（まとめ）

USHIO

基盤事業のキャッシュ創出力を強化し、成長事業への投資サイクルを構築することで、さらなる企業価値向上を実現



Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 27

今、ご説明した取り組みは、すべて収益性、資本効率向上に資する取り組みです。

これら基盤事業の強化や財務戦略の取り組みを着実に進展させ、成長事業の拡大を実現することで、企業価値向上を実現してまいります。

最終結果報告

募集期間 : 2025年3月～6月末(完了)
募集対象者 : 2025年4月1日時点で勤続3年かつ満56歳以上の社員等(ウシオ電機)
応募人数 : **238名(確定)**
損益影響 : 特別損失計上
FY24 : 15億円、FY25_1Q : 25億円

詳細 : [「セカンドライフ支援制度の拡充・特別募集の結果に関するお知らせ」](#) (2025年7月11日付)

最後に、セカンドライフ支援制度拡充の最終結果報告と、
米国の関税措置による影響の最新状況について報告させていただきます。

セカンドライフ支援制度拡充については、7月11日付のリリースの通り、
応募人数が確定し、238名の社員が当制度を活用することが確定しました。
これに伴い、当第1四半期決算において、25億円の特別損失を計上しました。

複数の想定リスクに対し、適切な対策を講じた結果、現時点で**想定以上のコスト増加を抑制**

主な想定リスク

- リスク①：シネマ及び一般映像分野向けプロジェクターの米国輸出に伴う追加関税
→ **サプライチェーンの見直し**
- リスク②：光源製品などの米国向け輸出に伴う追加関税
→ **価格見直しなどによる影響低減**
- リスク③－１：関税動向などの不透明感による半導体産業の投資判断遅延
→ **引き続き、動向注視**
- リスク③－２：外国映画関税に起因する米国の映画興行及びハリウッド映画製作への影響
→ **現時点で影響は確認されず**

前提：2025年7月31日時点で把握できている関税政策

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 29

米国の関税措置による影響ですが、直近で、認識できている関税政策において、適切な対策を講じることで、現時点で想定以上のコスト増加は発生せず、業績への影響を抑制できる見込みです。

各想定リスクに対する対応状況は、記載の通りで、一部で引き続き動向注視が必要なものもありますが、想定以上の影響が出る見込みのものは、現時点ではありません。

以上で、私からの説明を終わります。

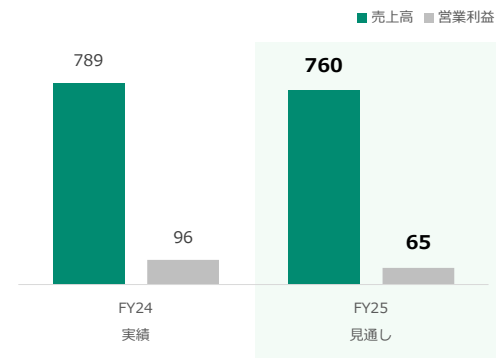
- I. 2025年度 1Q業績概要
- II. 2025年度 通期業績予想
- III. 新成長戦略の進捗報告及び決算トピックス
- IV. 参考資料 — ①通期業績予想（補足）
②その他

2025年度 通期業績予想 : Industrial Process事業

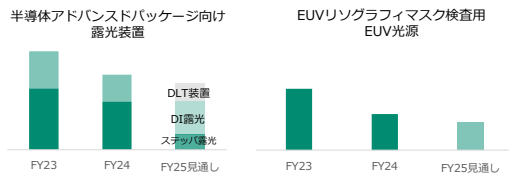
前回より変更なし

USHIO

*最新情報はスライド29を参照ください



【参考情報（売上高推移）】



■事業環境想定

生成AI関連は市場成長も、半導体市場(全般)の需要回復は緩やか
米国の関税措置による半導体産業への影響は注視*

- サブストレート基板市場は、過剰キャパシティ状態が継続し投資は低調
- スマホ、PCなどの最終製品の需要は緩やかな回復
- パワー半導体及び電子デバイスの需要は引き続き不透明
- 関税動向等で環境の不透明感が増し投資様子見による影響を懸念*

■売上高 : 前年同期比 29億円減収

- ステップパ露光装置は販売が減少。DI露光装置の販売は微増
- DLT装置は4Qから売上計上開始も、環境不透明感から一部案件が遅延
- 光源(露光用ランプ等)は、安定した稼働により横ばいを見込む
- EUVは単価下落で売上減。ただし、収益性はコスト改善で維持

■営業利益 : 前年同期比 31億円減益

- DLT装置関連の先行投資が拡大
- 露光装置の生産稼働率は、緩やかな解消を見込む

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 31

2025年度 通期業績予想：Visual Imaging事業

前回より変更なし

USHIO

*最新情報はスライド29を参照ください

■事業環境想定

需要は堅調も、中国経済や米国の関税措置の影響を注視*

シネマ市場

- 映画館の稼働及びプロジェクターの置き換え需要は堅調な見込み
- プロジェクター搭載の光源の固体光源化傾向が継続
- 外国映画関税動向による懸念があるも、業績への影響は不透明*

一般映像市場

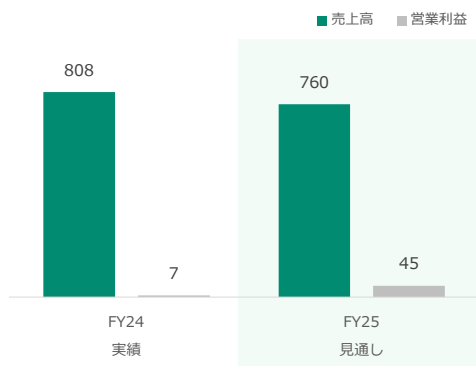
- 大規模演出や最先端の映像演出ニーズの高まりで需要は堅調

■売上高：前年同期比 48億円減収

- シネマ及び一般映像ともにプロジェクター販売台数は増加
- プロジェクター用ランプは、固体光源化の影響で減少
- 円高の為替影響による減収を見込む

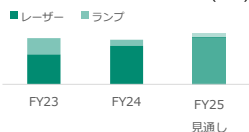
■営業利益：前年同期比 37億円増益

- 棚卸資産評価損の減少及び構造改革の実施による収益性改善を見込む

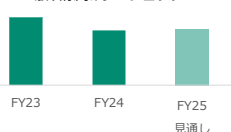


【参考情報（台数推移）】

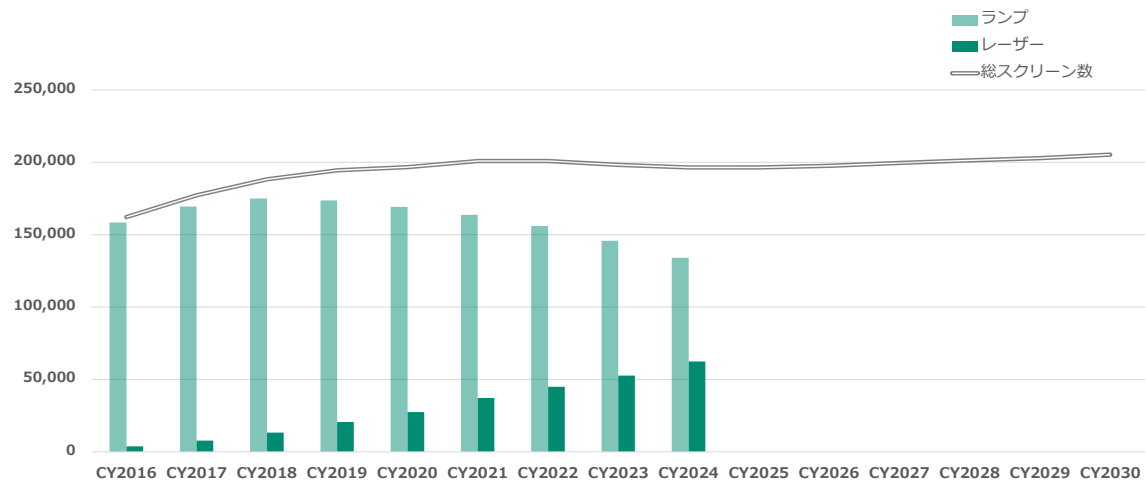
デジタルシネマプロジェクター(DCP)



一般映像向けプロジェクター



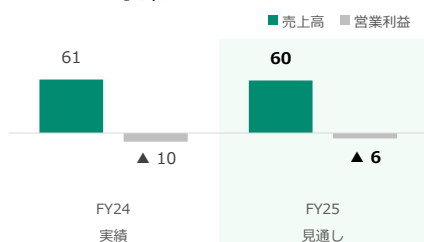
■光源別シネマスクリーン数及び総数の推移予想



2025年5月13日現在、ウシオ調べ

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved 33

Life Science事業



■事業環境想定

医療機器等で安定的な需要が継続

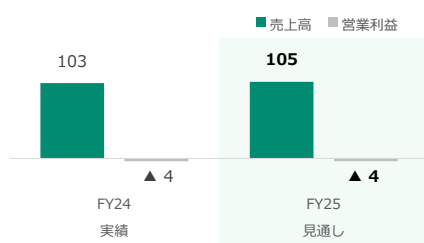
■売上高：前年同期比 1億円減収

- 環境衛生向け及び医療機器の販売は横ばいを見込む

■営業利益：前年同期比 4億円増益

- 新規事業案件のモニタリング強化及びコスト抑制で収益性改善を見込む

Photonics Solution事業



■事業環境想定

半導体等の産業用途中心に安定的な需要が継続

■売上高：前年同期比 1億円増収

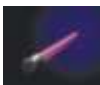
- 半導体関連中心に販売は横ばいを見込む

■営業利益：前年同期比 0億円増益

- 開発案件の見直しによる収益性改善を見込む

- I. 2025年度 1Q業績概要
- II. 2025年度 通期業績予想
- III. 新成長戦略の進捗報告及び決算トピックス
- IV. 参考資料 — ①通期業績予想（補足）
②その他

事業セグメントと主な製品

事業セグメント	主要事業・製品	製品例					
Industrial Process	光源： 露光用ランプ、OA用ランプ、光学機器用ランプ他 装置： 露光装置、キュア装置、保守メンテナンスサービス他	 露光用ランプ	 OA用ランプ	 エキシマランプ	 ステッパ露光装置	 ダイレクトイメージング露光装置	
Visual Imaging	光源： シネマ用ランプ、データプロジェクター用ランプ他 装置： デジタルシネマプロジェクター、一般映像向けプロジェクター、映像関連機器、保守メンテナンスサービス他	 シネマ用ランプ	 データプロジェクター用ランプ	 デジタルシネマプロジェクター	 一般映像用プロジェクター	 ディスプレイLEDウォール	 映像周辺機器
Life Science	光源：「Care222®」モジュール他 装置：紫外線治療機器他	 抗ウイルス・除菌技術「Care222®」モジュール	 紫外線治療機器「セラビームシリーズ」				
Photonics Solution	光源：固体光源	 固体光源（LD/LED）	 レーザーモジュール				

四半期推移《損益》

単位：億円		2024年度				2025年度	前年同期比	
		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	増減額	増減率
売上高		375	481	424	495	383	+8	+2.2%
営業利益		3	39	31	14	9	+6	+182.5%
営業利益率		0.9%	8.2%	7.4%	2.9%	2.5%	+1.6P	-
経常利益		14	39	50	19	16	+1	+10.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益/損失		2	20	34	10	▲28	▲31	-
EPS(円)		2.92	20.26	36.07	11.56	▲32.06	▲34.99	-
為替レート (円)	USD	155	153	149	154	145	▲10	-
	EUR	167	166	162	160	163	▲4	-

四半期推移《セグメント別損益》

単位：億円		2024年度				2025年度	前年同期比	
		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	増減額	増減率
Industrial Process	売上高	155	220	170	243	158	+ 2	+ 1.6%
	営業利益	10	41	18	25	3	▲7	▲68.9%
	営業利益率	6.7%	19.1%	10.9%	10.4%	2.1%	▲4.7P	-
Visual Imaging	売上高	175	216	211	205	183	+ 7	+ 4.1%
	営業利益	▲4	3	15	▲7	3	+ 8	-
	営業利益率	▲2.7%	1.6%	7.5%	▲3.5%	1.9%	+ 4.6P	-
Life Science	売上高	15	15	14	16	15	+ 0	+ 3.1%
	営業利益	▲1	▲3	▲2	▲2	1	+ 2	-
	営業利益率	▲11.1%	▲25.4%	▲16.7%	▲17.6%	7.2%	+ 18.3P	-
Photonics Solution	売上高	25	25	24	26	23	▲2	▲8.8%
	営業利益	▲0	▲2	▲0	▲0	2	+ 2	-
	営業利益率	▲2.3%	▲8.6%	▲2.0%	▲3.1%	9.8%	+ 12.1P	-
その他	売上高	2	3	3	3	3	+ 0	+ 9.0%
	営業利益	0	0	▲0	0	▲0	▲0	-
	営業利益率	1.1%	8.8%	▲0.6%	13.2%	▲7.3%	▲8.5P	-
連結合計	売上高	375	481	424	495	383	+ 8	+ 2.2%
	営業利益	3	39	31	14	9	+ 6	+ 182.5%
	営業利益率	0.9%	8.2%	7.4%	2.9%	2.5%	+ 1.6P	-

Copyright © 2025 Ushio Inc., All Rights Reserved

地域別売上高比率

USHIO

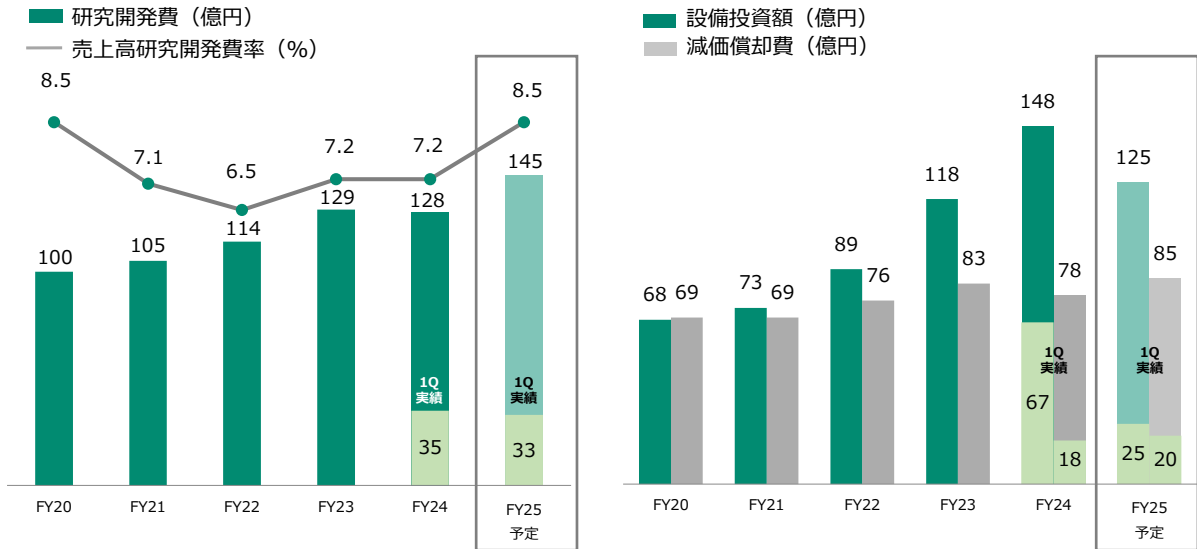
FY24_1Q
売上高
375億円



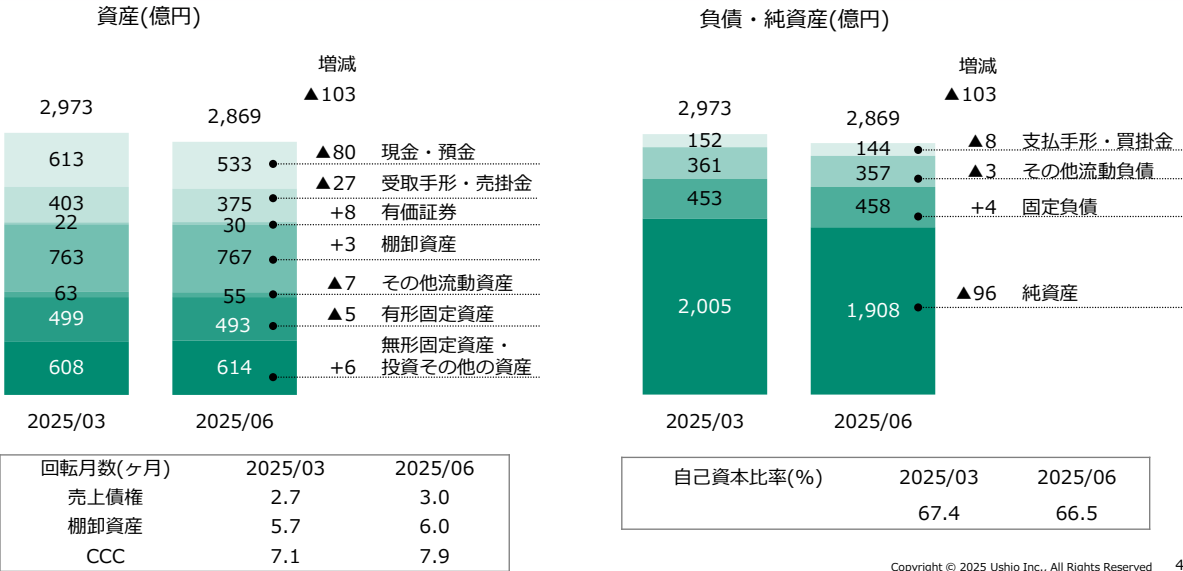
FY25_1Q
売上高
383億円



研究開発費／設備投資額・減価償却費



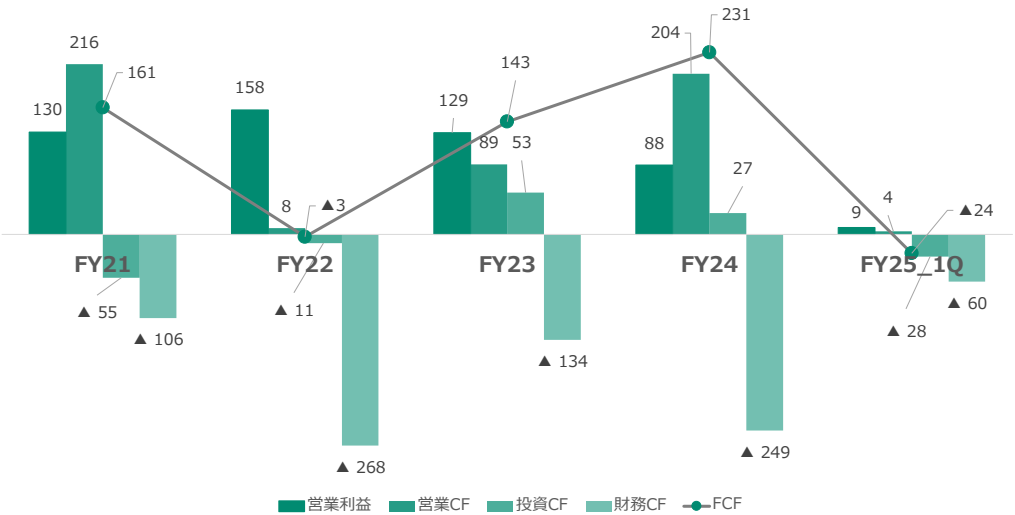
貸借対照表



キャッシュフロー推移

USHIO

単位：億円



■事業セグメント関連

IP事業	IP business	Industrial Process事業
VI事業	VI business	Visual Imaging事業
LS事業	LS business	Life Science事業
PHS事業	PHS business	Photonics Solution事業

■その他

AI	Artificial Intelligence	人工知能
DCP	Digital Cinema Projector	デジタル・シネマ・プロジェクター
DI	Direct Imaging	マスクを使わず、直接描画する露光方式
DLT	Digital Lithography Technology	デジタルリソグラフィ技術
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
OA	Office Automation	オフィス内の事務作業の自動化や効率化を図ること
半導体アドバンスドパッケージ (半導体ADP)	Advanced Packaging (ADP)	チップレットをはじめとする半導体の2xD、3D化に対応する最先端の パッケージ分野

IRサイト及びIRメール配信サービスのお知らせ

- 当社オフィシャルWebサイト「投資家情報」では、様々なIR情報を掲載しております。
- 法定開示や適時開示、その他IR情報等、ウシオのIRニュースを開示後適時にメールでお届けできるように **IRメール配信サービス**を導入しております。IRサイトからご登録いただきますようお願いいたします。

🖥️ オフィシャルWebサイトもご活用ください



投資家情報





統合報告書(Ushio Report 2024)





「大和インターネットIR表彰 2024」「2024年度 全上場企業ホームページ充実度 ランキング」
「優秀賞」受賞



「総合部門 最優秀サイト」選定

IRメール配信サービス
ご登録はこちら



<免責事項>

本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

ウシオ電機株式会社

IR室

(03) 5657-1007

ir@ushio.co.jp

<https://www.ushio.co.jp/jp/ir>